

学位論文要約

ドイツにおけるコルチャックの受容と
その教育学化に関する研究

松 浦 明 日 香

広島大学大学院教育学研究科

教育学習科学専攻

D185394

I. 論文題目

ドイツにおけるコルチャックの受容とその教育学化に関する研究

II. 論文構成

序章 問題の所在

第一節 問題の所在

第二節 コルチャックの受容の広がり と 先行研究の検討

第三節 研究の目的と方法

第一章 コルチャックの生涯とコルチャック研究の動向

第一節 医者、孤児院の院長、児童文学作家としてのコルチャック

第二節 コルチャックの活動とドイツとの関係

第三節 コルチャックの受容の世界的動向とドイツ受容の特異性

第二章 東西ドイツ時代を中心としたコルチャックの受容の展開

第一節 1972年以前のコルチャック受容の変遷

第二節 1972年以降のコルチャック受容の変遷

第三節 ドイツ語版全集（1996-2010）の刊行とその後

第三章 コルチャックの改革教育学に焦点化された読み

第一節 生前のコルチャックと教育学との結びつき

第二節 改革教育学（Reformpädagogik）におけるコルチャック研究（1960・70年代～）

第三節 改革教育学とコルチャックを巡る論争

第四章 コルチャックの拡張された教育学的な読み

第一節 治療教育学（Heilpädagogik）/ 特殊教育（Sonderpädagogik）（1980年代～）

第二節 子ども研究・子ども性（期）研究（Kinder-/Kindheitsforschung）（1990年代～）

第三節 その後の研究（2000年以降～）

第五章 コルチャック教育学としてのバイナーの「尊敬の教育学」構想

第一節 ドイツのコルチャック研究におけるバイナーの位置づけ

第二節 バイナーによるコルチャックの「子どもの権利」の構造化

第三節 「尊敬の教育学（Pädagogik der Achtung）」構想の展開

第六章 コルチャックの *szacunek* 概念に対するドイツ独自の解釈

第一節 Achtung が持つ固有性に関する検討

第二節 子どもの「人間の尊厳（Würde des Menschen）」への着目

第三節 「Achtung（尊敬）」概念の教育学における可能性

第七章 ドイツにおけるコルチャックの受容とその教育学化の特徴

第一節 非教育学的なコルチャックの受容

第二節 教育学的に読まれたコルチャックのあり様

第三節 教育学化されたコルチャック像

終章 研究の意義と課題

引用および参考文献

Ⅲ. 本研究の問題設定（序章の要約）

問題の所在と研究の目的

本研究の目的は、子どもの人権擁護者として知られるヤヌシュ・コルチャック（Janusz Korczak, 1878 (1879)-1942）の思想と実践がもつ教育学の意義を明らかにするために、その教育学化を進めてきたドイツにおけるコルチャックの受容を批判的に検討することである。

コルチャックは、「子どもの人権」を唱えた人物として教育学においてもしばしば言及されている。彼自身は教育学者ではなく、帝政ロシア領、第一次世界大戦、第二次世界大戦下のポーランドにおいて、小児科医、児童文学作家、孤児院の院長として活躍した。コルチャックの様々な実践についても、それゆえ、教育実践ではなく、養育実践と呼ばれる場合が少なくない。コルチャックが院長を務めた「ドム・シエロット」はいわゆる学校ではなく孤児院であり、常にコルチャックの念頭にあったのは、子ども一般ではなく、孤児や貧困児であったとされる（大澤 2015、145 頁参照）。

このように、コルチャックの生涯や活動は、児童保護や児童福祉、子どもの権利・人権といった非教育的あるいは前教育的な特質から捉えられるべき点を多く有している。さらに、彼自身が当時の国際的な教育運動や教育議論に直接的に参加した形跡はない（vgl. Sobecki 2008, S. 269）。したがって、彼がなんらかの立場から、明確な教育的意図を持って、子どもと関わっていたとは言い難い。ましてや、子どもを教育の対象とみなしていたとは考えにくい。これらのことは、コルチャックを教育学の枠組みで捉えることの一面性を指摘しているように思われる。とはいえ、コルチャックに教育学の要素がないわけではない。むしろ、その要素を強調し、教育学化を通してコルチャックを積極的に受容してきた動向がある。それは、ドイツのコルチャックの受容であり、ドイツの教育学研究である。

ドイツにおける戦後初期のコルチャックの受容は、ドイツ再生の文脈のなかで、過去を反省する新しいドイツを見せるという目的に強く影響された（Lewin 1997, p. 15）。1950年代、60年代には、コルチャックの代表作が翻訳され、コルチャックに対して関心が向けられるなか、その高まりが頂点に達した年とされる1972年（Kowal 2016, s. 212-213）には、ドイツの書籍出版協会からコルチャックに平和賞が授与された。この1972年の受賞を機に、コルチャックへの関心は、学術分野においても広がる。1973年には、ドイツ・ギーゼンにて、第1回国際コルチャック・シンポジウムが開催され、1974年には、ギーゼン大学にコルチャック研究の部門が創設された（Oommen-Halbach 2021, p. 46）。これらの動きは、その後のコルチャックに関する学術研究を発展させる足がかりとなった。

このように、戦後のドイツでは、コルチャックの受容が積極的に進められてきた。ただ、初期の受容段階から、コルチャックの教育学化が試みられていたわけではない。ここ最近のドイツにおけるコルチャックの受容の動向について言及しているシアバウム（2018）は、2000年代以降のコルチャックの受容の特徴として、コルチャックの教育学に着目した研究が多くなされていることを指摘している（vgl. Schierbaum 2018, S. 8-15）。シアバウムによると、1970年代初頭に社会教育学者（Sozialpädagoge）のハインペル（Elisabeth Heimpel, 1902-1972）によってコルチャックの著作の翻訳（Heimpel 1970; 1973）が出版され、教育学の専門雑誌にコルチャックに関する寄稿論文が掲載されたが、コルチャックを巡る教育学的な議論には発展しなかった（vgl. Schierbaum 2018, S. 13）。その後、1990年代に入り、再びコルチャック教育学が取り上げられるものの（Kemper 1990; Langhanky 1994）、70年代・80年代における状況とさして変わっていない。2000年を迎える頃になり、ようやくコルチャックの教育学を主題とした

教育学研究が多数行われるようになる (Schonig 1999; Waaldijk 1999; Radtke 2000; Hermeier 2006; Ungermann 2006; Kerber-Ganse 2009; Kaminska 2010; Liebel 2013; Winkler 2016; Hebenstreit 2017)。

実際、コルチャックは、彼が捧げた個人的な犠牲、無私な精神、教育学的な仕事への限らない献身、多くの子どもたちを物質的、精神的な苦難から救ったことなど (vgl. Baumgarten-Tramer 1965, S. 6) から、1960年代並びに、1970年代には、「ポーランドのペスタロッチー (der polnische Pestalozzi)」 (Baumgarten-Tramer 1965) や「ワルシャワからのペスタロッチー (der Pestalozzi aus Warschau)」 (Dauzenroth 1978) と称されている。また、1970年には、O.F. ボルノウがコルチャックの著作の書評を寄稿し、コルチャック教育学 (Korczak-Pädagogik) の中心的な要素を多くの読者に紹介したとされる (vgl. Schierbaum 2018, S. 10)。このように、コルチャックを教育学的に読み解こうとする人々がドイツにおいては早い段階で存在していた。しかしながら、コルチャックの思想と実践を教育学として捉えるものではなかったのである。エルカース (Jürgen Oelkers) は、はっきりと「ドイツの教育学にとって、教科書や教育学思想史からわかるように、コルチャックという名の教育学者はいないようである。」 (Oelkers 1982, S. 47) と述べている。

戦後、新生ドイツがナチズムの償いとしてポーランドの英雄を称揚した。この動向のなかでドイツの教育学者らも早い段階でコルチャックに教育学的要素を認め賞賛した。しかし、シアバウムが指摘するようなコルチャック教育学を対象とする研究が多数現れるようになるのは2000年以降のことである。今日のドイツにおけるコルチャックの受容の教育学化は、ダウツェンロート (Erich Dauzenroth, 1931-2004) とバイナー (Friedhelm Beiner, 1939-) の努力に負うところが大きい (vgl. Schierbaum 2018, S. 13)。コルチャックの思想と実践の教育学的要素が抽出されるに留まらず、コルチャックに教育学を深化発展させる可能性が見出されたのである。それらは、コルチャック固有の教育理論を構築しただけでなく、『コルチャック紀要 (Korczak-Bulletin)』の創設や「コルチャック派 (Korczakianer)」というコルチャックを学術的に探究する集団を形成させ、コルチャック教育学を一つの学問分野へと確立させていった。

それでは、いったい何がそのような展開をコルチャックの受容にもたらしたのであろうか。コルチャックの教育学化においては、コルチャックの教育学的要素の何が教育学にとって重要なものとみなされたのか。そして、再構成されたコルチャック教育学はどのようなものであり、教育学をどのように深化発展させうるものであるのか。

これらの問いに取り組むべく本研究では、まず、ドイツにおけるコルチャックの受容が教育学化に至るまでの過程とそこに影響を与えた社会的・歴史的背景を明らかにする。その際に、ドイツにおいてコルチャックへの関心が頂点に達した年とされる1972年をコルチャック受容の転換点とし、1972年以前と1972年以後のコルチャックの受容を整理する。そして、1972年以降、コルチャックの受容がどのような変遷をたどったのかを検討したい。次に、そうした検討を踏まえ、コルチャックの受容のなかで教育学化に向けた動きがどのような過程を経て進み、展開したのかを明らかにする。最後に、ドイツにおけるコルチャックの受容とその教育学化の過程を追うことで明らかになった点から、非教育的な特質を有するコルチャックの思想と実践が教育学にもたらしうる可能性について考察したい。

IV. 論文の要約（各章の概要）

第一章 コルチャックの生涯とコルチャック研究の動向

コルチャックは、1878（1879）年に帝政ロシア領ポーランドのワルシャワに生まれ、帝政ロシア体制下の学校で学び、1898年にワルシャワ大学の医学部に入学している。そのため、コルチャック自身は、当時のドイツの政治体制や社会状況とは、直接関わりのない幼少期を過ごしていたといえる。しかしながら、隣国のロシア、プロイセン、オーストリアによる度重なる分割を経験しているポーランドの歴史を概観すると、ドイツも、ロシアと同様に、コルチャックが生まれる前の時代はもとより、彼が生きた時代のポーランドに影響を与え続けてきた。

彼は、1907年から1908年にかけて、ベルリンに留学している。この時期のドイツ国内は、歴史的に見れば、ポーランド国家の独立を認めないプロイセン政府（ドイツ帝国指導部）の抑圧的措置と、これに反対を強めるポーランド側の対抗運動が繰り返されていたといえよう（伊藤 2002、7頁参照）。しかしながら、コルチャックの手記「ベルリンからの印象（Wrażenia z Berlina）」（1907）で語られるコルチャックの回想からは、充実したベルリンの日々が表れている。1935年には、ドイツ語による最初のコルチャックの著作の翻訳 *Der Bankrott des kleinen Jack*（*Bankructwie małego Dżeka*（1924）/ 邦訳：小さなジャックの破産）が出版された（Kowal 2016, s. 212）。これは、コルチャックの生前においても、ドイツでコルチャックの作品が注目されたことを示しているといえる。1939年にナチスドイツがポーランドに侵攻した。その際、コルチャックの孤児院は、ワルシャワ・ゲットー（ユダヤ人強制居住区）に移転させられることになる。コルチャックがゲットーでの暮らしを書き記した『ゲットー日記（*Pamiętnik z getta*）』は、戦後に出版・翻訳され、世界の人々の注目を集めた（塚本 2019、31頁参照）。

第二章 東西ドイツ時代を中心としたコルチャックの受容の展開

戦後、ポーランド人やユダヤ人の作家がドイツ語でコルチャックの生涯を解説したことで、初めてコルチャックが広く知られるようになり、「コルチャック神話」が確立された（vgl. Schierbaum 2018, S. 9-10）。さらに、1945年から1972年の間に、新聞記事やコラムなどによる彼の人生と苦悩の物語の大衆化が、「コルチャック神話」を普及させることになる（ebenda）。その後、ドイツにおけるコルチャックの受容は、1972年にコルチャックがドイツ書籍出版協会平和賞（*Friedenspreis des deutschen Buchhandels*）を受賞したことで大きな契機を迎える。1972年以降、それまでは社会的に広く知られ、大衆化のなかで普及してきたコルチャックの伝記や著作が学術研究の対象へと展開する。

戦後初期には、西ドイツよりも東ドイツにおいてコルチャックの著作に関する翻訳刊行や寄稿が活発であり、1967年の東ドイツでのコルチャックの代表作 *Jak kochać dziecko*（1918 / 1920）（邦訳：いかに子どもを愛するか）の翻訳 *Wie man ein Kind lieben soll*（1967）刊行がなければ、1972年のドイツにおけるコルチャック受容のブレイクスルーはあり得なかったという見解もなされている（Kowal 2016, s. 212）。その状況は1972年を境に一転する。東ドイツでの動きが衰退する一方、ダウツェンロートの主導のもと、1974年にギーゼン大学にコルチャック研究の拠点となる研究機関が創設され、その後、西ドイツでコルチャック研究の国際シンポジウムが開催される。こうした場では、西ドイツの研究者たちとポーランドのコルチャック研究者たちとの交流が深まり、ポーランドとの協力関係のもと、ドイツ語版『ヤヌシュ・コルチャック全集』（1996-2010）の刊行が計画された（vgl. Korczak 1996, S. 469-474）。

第三章 コルチャックの改革教育学に焦点化された読み

コルチャックは、1907年のベルリン留学の際に、小児病院、心身障害者施設、精神障害者施設といった医療施設だけでなく、特殊学校などの教育機関、孤児院を訪問し、知識や経験を深めたとされる (Kowal 2016, s. 210)。また、スイスの心理学者のピアジェがコルチャックの孤児院を訪問しており、その他、先行研究において、ポーランドの新教育を代表する複数の人物とコルチャックの関連が指摘されている (Sobecki 2008, S. 9f.)。

ドイツにおいては、1972年の平和賞の受賞を機に、教育学におけるコルチャックに関する議論はさらに活発になり、多くの教育学者によって、改革教育学における代表的な人物とコルチャックとの共通点や相違点が議論されることになる (vgl. Beiner 1994)。しかしながら、今日における改革教育学とコルチャックの関係についての議論においては、同時代の改革教育学の言説には関与していないという主張もなされている (vgl. Sobecki 2008; Oelkers 2015, S. 24)。実際に、改革教育学とコルチャックを対象とした研究は、1970年代、80年代をピークに、90年代以降は、徐々になされなくなる。

第四章 コルチャックの拡張された教育学的な読み

1980年代には入ると、治療教育学 (Heilpädagogik) や特殊教育 (Sonderpädagogik) といった障害児教育 (学) における研究が盛んになる。また、ドイツの障害児教育学の発展とともに、近年では、インテグレーション (統合) 教育学 (Integrationspädagogik) やインクルーシブ教育学 (Inklusionspädagogik) においてもコルチャック研究がなされており、議論の広がりが見られる (Klein 2017; Klein 2018)。障害児教育において、とりわけ着目されたのは、子どもの人間としての個性を尊重するコルチャックの「子ども」の捉え方であった。そのような見識は、90年代に入り盛んになる子ども研究における議論 (vgl. Kirchner/Andresen/Schierbaum 2018) や、2000年代以降の幼児教育学 (Frühpädagogik)、非教育的な教育学 (Pädagogik der Nicht-Erziehung)、緩和ケア・こどもホスピス (Kinderhospizarbeit) といった多様な文脈における研究へと発展する (vgl. Winkler 2016; Maluga 2020; Wyrobnik 2021)。

第五章 コルチャック教育学としてのバイナーの「尊敬の教育学」構想

教育学におけるコルチャック研究と並行して、子どもたちとの英雄的な死のために、コルチャックの人生を「子どものための人生」として道徳的に捉える動向に抵抗しようとする研究もあった。なかでも、ドイツのコルチャック研究を牽引してきたバイナーは、歴史的な負の出来事から取り出されるコルチャック像ではなく、実際にあったコルチャックの人生を見ようとした。それらは、コルチャック教育学の構想へと発展した。バイナーは、コルチャックの三つの子どもの基本的な権利である「自由のマグナカルタ」の上位にコルチャックの「尊敬に対する子どもの権利 (Das Recht des Kindes auf Achtung / Prawo dziecka do szacunku / 子どもの尊重される権利)」を位置づけ、そこからコルチャックの教育学、すなわち、「尊敬の教育学 (Pädagogik der Achtung)」を構想する。その際、尊敬 Achtung の意味を強調しながら、コルチャックの「尊敬に対する子どもの権利」の独自性を検討している。バイナーは、コルチャックの「尊敬に対する子どもの権利」の「尊敬」概念について、「大人を通した子どもの尊敬 (Respektierung) が子どもに他者を尊敬すること (zu achten) を教える、相互的な事象としての尊敬 (Achtung)」であると説明する (vgl. Beiner 2008, S. 49)。バイナーは、生前よりコルチャックが強く要求しつづけていた「子どもの権利」に教育学的意義を見出した。

第六章 コルチャックの *szacunek* 概念に対するドイツ独自の解釈

国内外の先行研究からは、コルチャックの思想において、尊重を意味する *szacunek* 概念が重要な概念であることが指摘されている。ドイツのコルチャック研究においては、戦後、教育学的な要素に注目されたコルチャックの著作が、翻訳・出版されるなかで、*Achtung* と訳された。その翻訳を引き継ぎながら、ドイツの時代的・社会的背景の影響を受けつつも、イマヌエル・カントの *Achtung* の意味に依拠しながら、コルチャックの思想と実践に体系的な教育学を見出そうとする試みによって、深化発展された概念であるといえる。そのような過程のなかで、コルチャックが生前、何を考え、実際に何をしていたのかに着眼点が置かれ、徐々にその内実が明らかになった。それは、「ホロコーストのシンボル」や悲劇の英雄像からコルチャックを救い出すことにもなったといえる。バイナーによって目指されたコルチャック教育学の構想は、児童保護や児童福祉の分野で先駆的であったコルチャックの子ども観や子どもの人権思想を、教育学において検討することに留まらず、積極的に教育理論へと読み変えることであった。このコルチャックを教育学に転用する試みが、2000年代以降のコルチャック教育学に関する議論への萌芽となったといえよう。

第七章 ドイツにおけるコルチャックの受容とその教育学化の特徴

ドイツにおけるコルチャックの受容の歴史は、コルチャックと彼に託された子どもたちのトレ布林カ絶滅収容所への強制送還とその死においてコルチャックを考察することに支配されていることが指摘されている (Kirchner u.a. 2018, S. 2)。また、コルチャックの読者たちが、とりわけワルシャワゲットーで書かれたコルチャックの最後の文章から読み取った国家社会主義に対する恐怖も、コルチャックの受容の中心的な出発点であった。その一方で、そのようにコルチャックが捉えられることで、コルチャックの学術的な業績は包括的に分析されず、コルチャック自身や彼のアプローチが批判の対象となることを招いたとされる (ebenda)。例えば、コルチャックが主題化した子どもの自らの死に対する権利は、コルチャックが子どもたちの死を引き受け、ゲットーおよび絶滅収容所において子どもたちから希望を奪うことなく、差し迫った死への準備を整えようとしたという事実在先導され、意味づけられることになる (ebenda)。1970年代に入るまで、ドイツのコルチャックの受容において、「コルチャック神話」が捨て去られることは例外的であった。

子どもとともに生きた「教育者コルチャック」の受容は、当時の児童中心主義の動向や子どもの神聖化への傾向に懐疑的であったとされるコルチャックを、20世紀初頭の改革教育運動の象徴的な人物として位置づけた。ドイツでは、コルチャックにちなんで名付けられた学校が多数あるが、コルチャックの思想や実践を継承している学校はほとんど見られない。また、コルチャックについて言及している文献は、全てを把握するのが困難であるとされるほど数が多く、多岐にわたる (vgl. Winkler 2016, S. 117)。それらの文献のなかには、借り物の権威を正当化するため、あるいは自らの懸念を裏付けるために、コルチャックに言及する場合もある (ebenda)。その一方で、教育学雑誌においては、伝記や、ワルシャワでのウムシュラクプラッツへの子どもたちとの「最後の行進」について、ときに非常に詳しく紹介されるのに加え、主に、子どもの権利と自治制度に焦点を当てていることが指摘されている (Beiner/Ungermann 1998, S. 4)。また、教育学においてコルチャックを読み解こうと試みる「多くの著者は、解釈の代わりに、中心的な原典の内容を要約しており、これにより、教育科学に関心を持つ多くの教育学者や一般人が、ポーランドの教育学者の思想にアクセスできるようになった」(ebenda, S. 7f.)として考察されている。した

がって、教育学的に読まれたコルチャック像は、戦後初期から展開した神話化の一部によって形成された部分と、そこには当てはまらない「コルチャック神話」を捨て去ったコルチャック像の両者によって形成された複雑なものであったといえる。

「教育者コルチャック」に関する議論の一部においてなされた、神話を捨て去ったコルチャックの著作の検討や、それらによって抽出されたコルチャックの教育学的な要素が、教育学者や一般の人にも広がる。当時のドイツ教育学において問題提起された「アウシュヴィッツ以後の教育」においては、コルチャックが有する教育学的な要素は、取り上げられるべき重要なものとして見なされた (ebenda, S. 4)。ドイツの教育学においては、「アウシュヴィッツ以後の教育」とコルチャックの関係に示されるように、ドイツの「贖罪」の歴史にコルチャックが位置づけられた。それとは別に、「コルチャック神話」にゆだねず、戦後ドイツの歴史性を継承する教育の文脈にも位置づかないコルチャックの受容が教育学の中に形成されつつあった。そこでは、教育学者でないコルチャックを「教育学者」として捉え、コルチャックの教育学を構築し、コルチャックを教育学化するものであった。ドイツのコルチャックの受容において「子どものために生涯を捧げた教育者像」が主要な受容のあり方であったが、そのようなコルチャック像とは別に、「コルチャック神話」を捨て去った「教育学者コルチャック」が求められた。

V. 本研究の意義と課題 (終章)

本研究では、コルチャックの思想と実践がもつ教育学的意義を明らかにするために、その教育学化を進めてきたドイツにおけるコルチャックの受容について批判的に検討することを試みた。その結果、ドイツのコルチャックの受容の過程において、どのように教育学化に至ったのかが示された。まずは、子どもとともに生きたコルチャックの生涯に着目し、ホロコーストの犠牲者として英雄視された非教育的なコルチャック像である。次に、それらを基盤とした「コルチャック神話」の大衆化、および当時の国際的な新教育運動のなかで注目され、さまざまな教育学者、教育関係者たちによって教育学的に読まれたコルチャック像である。そして、現在のコルチャックの受容に影響を与え、教育学者としてのコルチャック像を形成し、コルチャック固有の教育理論の構築を促した教育学化されたコルチャック像の歴史の変遷過程であるといえよう。

本研究の意義は三点ある。まずは、戦後ドイツにおいてコルチャックがどのように捉えられたのかを明らかにした点である。1945年から1972年頃のドイツにおけるコルチャックの受容は、コルチャックの最期に強く影響されたことは確かであるが、コルチャックという人物の個人的な死そのものを受け止めることから出発しているのではなく、とりわけ西ドイツにおける戦後処理や時代的・社会的背景のもとで活発になったといえる。それらは、西ドイツ国民やユダヤ人、ポーランド人、それぞれのイデオロギーとも調和し、大衆化され、道徳的規範をも有した「コルチャック神話」が確立された。

次に、教育学者でないコルチャックがどのようにして「教育学者コルチャック」となったのか、すなわち、コルチャックが教育学化されるなかでどのような点が注目され、その結果、どのような議論がなされたのかを明らかにした点である。生前、コルチャックによって体系化されたという事実がないなかで、コルチャックの作品や文献の特徴からもその困難さが示されているにも関わらず、それでもなおコルチャックの思想や実践、生涯、作品が体系的にまとめられた。さらに、それらに横たわる教育の思想的・社会的な前提が問われ、教育的な働きかけやその条件、およびコルチャックの思想と実践において教育が成り

立つ条件や事象が探究された。そのようなコルチャックの教育理論が導かれるとともに構築されたコルチャックの教育学は、それまでの読者や研究者たちによって場所を変え、視点を変えながら生み出されてきたコルチャック像に根深く息づいていた「コルチャック神話」に対する挑戦であった。その際、他のコルチャックの受容ではなく、教育学におけるコルチャックの受容が展開したのは、「コルチャック神話」を捨て去ったコルチャックの受容を試みた当時の教育学者や研究者、それらに触れた読者たちのコルチャック像に意義が見出されたからであるといえる。

三点目として、コルチャックの教育学化が、ドイツ教育学やドイツ社会とどのように影響し合い展開したのかを明らかにした点である。コルチャックの教育学化によって「コルチャック神話」の中では捉えきれなかったコルチャックの子どもの人権思想や子どもの尊厳概念の意義が明らかになった。それらはドイツ社会における人権や人間の尊厳に関する議論においても検討されうる可能性を見いだしたといえる。このことはドイツにおけるコルチャックの受容の場が広がったというだけでなく、伝統的な人間観や尊厳の文脈とは異なった形で、ドイツ社会に子どもの人権や子どもの尊厳に関する議論を提起することにもなったといえよう。

本研究においては、コルチャックの教育学化が、ドイツ社会において位置づけられ、ドイツ教育学の学術議論に耐えうるものであったこと、そして、伝統的なドイツ教育学の規範を揺さぶり、問いうるものであったことを示した。しかしながら、コルチャックの教育学化は、新たな「コルチャック神話」に過ぎないという捉え方もできる。コルチャックを教育学者として見なすことへの批判のなかには、教育学化することは、コルチャックを新たな消費の対象にすることになりかねないと危惧する声もあった。確かに、コルチャックの教育学化は、批判を受けつつそれらにこたえようとすることで深化発展してきた側面もある。しかし、繰り返し教育学化に向けられてきた批判的な見解にこたえられたとは言い難いところもある。したがって、教育学化の出発点であった歴史的に支配されてきたコルチャック像からの回帰は、「教育学者コルチャック」の新たな「コルチャック神話」へと至ったと捉えうる。コルチャックの教育学化は、コルチャックを歴史に支配された捉え方から解放することを可能にしたとしても、「コルチャック神話」を崩していく過程ではなかったと見なすこともできるだろう。もう一つ教育学化という視点でドイツのコルチャックの受容の過程を検討した結果、見えたものがある。それは、コルチャックの思想と実践の内実を明らかにしたいと考えたドイツのコルチャック研究者や関係者たちの探究心であった。今日に至るドイツのコルチャックの受容の過程には、ドイツの研究者、教育学者の尽力があったことが示される。

最後に、本研究の限界と今後の課題について述べる。教育学化が進められてきた要因には、当時のドイツの教育学者たちの意図が大きな影響を及ぼしたことは明らかである。しかしながら、本研究では、書籍や論文化された資料の文献検討に留まっており、直接聞き取ることやドイツ語圏の研究者たちとの交流はできなかった。今後の課題としては、長年にわたってコルチャック研究を継続している教育学者が、ドイツのコルチャック受容をどのように捉えていたのかについて、さらに文献をあたるとともに、直接交流する機会を得るなどして検討する必要がある。また、戦後ドイツにおける「贖罪」と関係が深く、国際的なコルチャックの受容においても影響力のある国にイスラエルの存在があるが、本研究ではドイツのコルチャックの受容についてイスラエルとドイツの歴史的・社会的関係から検討することはできていない。今後は、ドイツおよびポーランドにおけるコルチャック研究や出版物のみならず、イスラエルにおけるコルチャック研究やコルチャックの受容とも照らし合わせながら、検討していくことをさらなる課題としたい。

VI. 引用参考文献

【欧文文献】

- Anfang, K./ Godel-Gassner, R./ Krehl, S./ Spiegler, D./ Stichler, A./ Metzger, S. (2017): Januzs Korczak im Kontext der Reformpädagogik. In: Godel-Gaßner, R. (Hrsg.)/ Krehl, S. (Hrsg.): *Kinder sind auch (nur) Menschen. Janusz Korczak und seine Pädagogik der Achtung. Eine Einführung.* Gera: Garamond Verlag, S. 105-117.
- Barszczewska, L., Milewicz, B. (wyb. i oprac.) (1989) *Wspomnienia o Januszu Korczaku*, Nasza Księgarnia, Warszawa.
- Baumgarten-Tramer, F. (1965): *Janusz Korczak: der polnische Pestalozzi*. Düsseldorf: Rochus-Verlag.
- Bartosch, U./ Maluga, A./Bartosch, C./Schieder, M.(Hrsg.) (2015): *Konstitutionelle Pädagogik als Grundlage demokratischer Entwicklung*. Bad Heilbrunn: Verlag Julius Klinkhardt.
- Beiner, F. (1972): *Zur Individualisierung des Lernprozesses. Möglichkeiten und Erfolge der Individualisierung im programmierten Unterricht (PU) und im Computer-Unterstützten Unterricht*. Duesseldorf: Schwann.
- Beiner, F./ Bussmann, H. (1972): *Zur unterrichtswissenschaftlichen Organisation individueller Lernprozesse*. Düsseldorf: Schwann.
- Beiner, F./ Hansen, J. (1974): *Heterogene Gleichgewichte: ein Studienprogramm zur Einführung in die Konstitutionslehre der Metallkunde; für Studierende der Hüttenkunde, Werkstoffkunde, Maschinenbau- und Metallkunde an Hoch- und Fachschulen und zum Selbststudium*. Berlin: De Gruyter.
- Beiner, F. (1975): *Statistik für Sozialwissenschaftler I*. Düsseldorf: Droste.
- Beiner, F. (Hrsg.) (1979): *Probleme der Sekundarstufe I [eins] am Beispiel der Hauptschule : Dokumentation d. Wuppertaler Mentorentages 1979*. Wuppertal: Univ.-Gesamthochsch.
- Beiner, F. (1981): *Praxisschock. Zur Konfliktsituation junger Lehrer*. Dokumentation d. Wuppertaler Mentorentages 1981. Wuppertal: Universität Wuppertal.
- Beiner, F. (1982a): *Prüfungsdidaktik und Prüfungspsychologie : Leistungsmessung u. Leistungsbewertung in d. öffentl. Verwaltung sowie in d. berufl. u. allg. Bildung. Verwaltung und Fortbildung / Sonderheft ; 7*. Köln; Bonn: Heymann.
- Beiner, F. (Hrsg.) (1982b): *Janusz Korczak : Zeugnisse einer lebendigen Pädagogik Vierzig Jahre nach seinem Tod : Referate des Ersten Wuppertaler Korczak-Kolloquiums*. Heinsberg: Agentur Dieck.
- Beiner, F. (1982c): *Zur Konfliktstruktur der Lehrerrolle: Praxisschock, Rollenkonflikte, Professionalisierung im Lehrerberuf*. Heinsberg: Agentur Dieck.
- Beiner, F. (1982d): *Zur aktuellen Situation des Hauptschuelers. Paedagogische Analysen - Didaktische Empfehlungen - Praktische Modelle*. Heinsberg: Agentur Dieck.
- Beiner, F. (1983a): *Leitfaden fuer schulpaedagogische Studien. Universitaet-Gesamthochschule*. Wuppertal: Gesamthochschule Wuppertal.
- Beiner, F. (1983b): *Perspektiven pädagogischen Handelns in einer desorientierten Gesellschaft: e.*

- aktuelle Studie zur Situation von Schule u. Unterricht in ihren ökologischen Verflechtungen.*
Heinsberg: Agentur Dieck.
- Beiner, F. (Hrsg.)(1983c): *Wege zur Analyse von Schule und Unterricht - exemplarisch aufgezeigt anhand einführender Studien und didaktischer Materialien Arbeitsbericht d. Schulpädagogik u.d. Arbeitskreises Lehrerbildung.* Berg. Univ., Gesamthochsch.
- Beiner, F. (Hrsg.) (1984): *Zweites Wuppertaler Korczak-Kolloquium 1984 Korczak-Forschung und -Rezeption.* Universitäts-Druck Wuppertal.
- Beiner, F. (1985): *Janusz Korczak. Bibliografia 1896-1942.* Heinsberg: Dieck
- Beiner, F. (1986a): Bedingungen paedagogisch legitimierbarer und lernpsychologisch wirksamer Unterrichtsmedien. Versuch einer Deutung 20 Jahre nach Beginn der bundesdeutschen Diskussion um den computerunterstützten Unterricht. kussion um den computerunterstützten Unterricht. In: *Englisch-Amerikanische Studien*, 8 (2), S. 192-197.
- Beiner, F. (Hrsg.) (1986b): Janusz Korczak, Pädagogik der Achtung.Tagungsband zum 3. Internationalen Wuppertaler Korczak-Kolloquium. Heinsberg: Agentur Dieck.
- Beiner, F. (1987): *Ein Wegbereiter der modernen Erlebnispädagogik?* Lueneburg: Neubauer.
- Beiner, F. (Hrsg.)/ Licharz, W. (Hrsg) (1987): *Dialog mit Polen Beitr. zur dt.-poln. Verständigung ; Halbjahresschr. Streit um die Geschichte.* (In Verbindung mit, Deutsche Korczak-Gesellschaft) Frankfurt am Main: Haag & Herchen.
- Beiner, F./ Dauzenroth, E. (Hrsg.) (1987): „Auf dass nichts in Vergessenheit gerät.“ *Zeugen und Zeugnisse für Janusz Korczak.* Gießen: Institut für Bildungsforschung.
- Beiner, F. (1988a): *Der Holocaust – Familie und gesellschaftliche Folgen – Aufarbeitung in Wissenschaft und Erziehung?* mit Dan Bar-On / Manfred Brusten. Uni-Druck Wuppertal.
- Beiner, F. (1988b): Der Computer als Medium des Fremdsprachen-Unterrichts? In: *Neue Technologien und Fremdsprachenausbildung an den Hochschulen.* Bochum: Univ, S. 53-58.
- Beiner, F. (1988c): *Janusz Korczak. Bibliografia publikacji Janusza Korczaka i o Januszu Korczaku w Polsce 1943-1987.* Heinsberg: Dieck.
- Beiner, F. (Hrsg.) (1988d): *Zeichen der Versöhnung.* (In Verbindung mit, Deutsche Korczak-Gesellschaft) Frankfurt am Main: Haag & Herchen.
- Beiner, F. (Hrsg.) (1989): *"Auf daß nichts in Vergessenheit gerät". Zeugen und Zeugnisse für Janusz Korczak;* [Beiträge des Symposions der Internationalen Janusz-Korczak-Gesellschaft, Miedzynarodowe Stowarzyszenie im. Janusza Korczaka, Janusz Korczak International Society, in Schloß Rauischholzhausen vom 3. - 7. Oktober 1988]. Gießen: Inst. für Bildungsforschung u. Pädagogik d. Auslands, Justus-Liebig-Univ.
- Beiner, F. (1991a): *Der unbekannte Korczak Erich Dauzenroth zum 60. Geburtstag.* In: *Pädagogische Rundschau*, 45 (3), S. 321-330.
- Beiner, F. (Hrsg.) (1991b): *Janusz Korczak. Von der Grammatik und andere paedagogische Texte : mit einem Anhang: Erinnerungen seiner Schueler.* Heinsberg: Agentur Dieck.
- Beiner, F./ Lax-Hoefler, E. (1991c): Wie man ein Kind lieben soll oder Das Recht des Kindes auf

- Achtung. Grundlagen einer Paedagogik der Achtung nach Korczak. In: Von Hentig, H. / Beiner, F./ Lax-Höfer, E./ Dieck, E.: *Janusz Korczak*. Heinsberg: Agentur Dieck, S. 15-37.
- Beiner, F. (1992): "Alle Traeume sind salzig - wer das versteht, kann Kinder erziehen". In: *Theorie und Praxis der Sozialpädagogik*, 4, S. 235-238.
- Beiner, F. (1994): Wer kann Erzieher sein? Das Bild des Erziehers bei Korczak und anderen Reformpädagogen. In: *Einfuehrung in die Korczak-Paedagogik. Konzeption, Rezeption und vergleichende Analysen* (Herausgegeben von Kunz, L.). Weinheim/ Basel: Beltz Verlag, S. 71-102.
- Beiner, F. (1996): Wer kann Erzieher sein? - Das Bild des Erziehers bei Janusz Korczak. In: *Engagement : Zeitschrift für Erziehung und Schule*, 3, S. 326-342
- Beiner, F. (1997): *Korczaks Pädagogik der Achtung - eine sich-selbst-bescheidende, aber "fröhliche Pädagogik"*. Wiener Lehrerzeitung, 10, S. 1-3.
- Beiner, F./ Ungermann, S.(1998): Zur Rezeption der Pädagogik Janusz Korczak in der deutschen Erziehungswissenschaft. In: *Korczak-Bulltein*, 7, S. 4-11.
- Beiner, F. (1999): Korczak-Pädagogik. Legitimation und Praxis erzieherischen Handelns. Gefälligkeitsübersetzung: Korczak education. In: *Pädagogische Rundschau*, 53 (6), S. 665-681.
- Beiner, F.(2002): Leben und Werk oder: Die Kinder begleiten. In: Tschöpe-Scheffler, S. (Hrsg.): *Janusz Korczak und die Kinderrechte. Gestern, heute, morgen*. Eitorf: Gata, S. 17-48.
- Beiner, F. (2004): Prof. Dr. Erich Dauzenroth †. In: *Uni-Forum Zeitung der Justus-Liebig-Universität*, 17, Nr. 4, S. 13.
- Beiner, F./ Ungermann, S. (2004): *Janusz Korczak in Theorie und Praxis. Beiträge internationaler Interpretation und Rezeption*. Gütersloh: Gütersloher Verl.-Haus.
- Beiner, F. (2008): *Was Kindern zusteht: Janusz Korczaks Pädagogik der Achtung - Inhalt - Methoden -Chancen*. Güterskoh: Gütersloher Verlagshaus.
- Beiner, F. (2012): Janusz Korczak - Wegbereiter einer demokratischen Erziehung? In: *Pädagogische Rundschau*, 66(1), S. 67-80.
- Beiner, F. (2013): Zur Rezeption der Pädagogik. Eine Bestandsaufnahme der deutschsprachigen Rezeption anlässlich des Korczak-Jahres 2012. In: *Facettenreich im Fokus. Janusz Korczak und seine Pädagogik - Historische und aktuelle Perspektiven* (Herausgegeben von Godel-Gaßner, R./ Krehl, S.). Jena: Garamond-Verl, S. 25-32.
- Beiner, F. (2015): Janusz Korczaks Weg zur „Pädagogik der Achtung“ und Maria Falskas Beispiel einer „Konstitutionellen Erziehung.“ In: *Korczak-Bulletin*, 22, S. 8-37.
- Beiner, F. (2022): Korczaks demokratische Erziehungsreform: Partizipation, Konstitution, Achtung. Versuch einer werkbiographischen Rekonstruktion. In: *Pädagogische Rundschau*, 76(1), S. 77-101.
- Berding, J. (2002): Pedagogische participatie en de noodzaak van herinstitutionalisering. De verwante visies van John Dewey en Janusz Korczak. In: *Pedagogiek* 22e jaargang 3, pp. 250-259.
- Berding, J. (2020). *Janusz Korczak: Educating for Justice*. Cham: Springer.
- Bogusz, J. (1982): „Janusz Korczak – Brücke zwischen den Nationen.“ In: Beiner, F. (Hrsg.): *Janusz Korczak. Zeugnisse einer lebendigen Pädagogik. Vierzig Jahre nach seinem Tod. Referate des*

- Ersten Wuppertaler Korczak-Kolloquiums*. Heinsberg: Agentur Dieck, S. 34–38.
- Bollnow, O. F. (1970): J. Korczak: Wie man ein Kind lieben soll. In: *Universitas* 25, S. 197-201.
- Budde, R. (ed.)/ Markowska-Manista, U. (ed.) (2020). *Childhood and Children's Rights between Research and Activism. Honouring the Work of Manfred Liebel*. Wiesbaden: Springer.
- Buckley, J.J. (1975/76). Janusz Korczak Bibliography. In: *Studies in Bibliography and Booklore*, Vol. 11, No. 1/2, CENTENNIAL ISSUE (Winter, 1975/76), pp. 85-92.
- Dauzenroth, E. (1957): *Der pädagogische Realismus Johann Michael Sailers*. (Dissertation / Theses) Frankfurt am Main: Universität Frankfurt am Main.
- Dauzenroth, E. (Hrsg.)/ Lange, H. (Hrsg.) (1964): *Frauenbewegung und Frauenbildung*. Bad Heilbrunn/Obb.: Verlag Julius Klinkhardt.
- Dauzenroth, E. (1972): Zum Schicksal Janusz Korczaks und seiner Brüder. In: *Frankfurter Hefte*; 27(8), S. 587-592.
- Dauzenroth, E./ Hampel, A. (1975): *Wer war Janusz Korczak: 8 Vorträge und ein Feature*. Giessen: Universität Giessen.
- Dauzenroth, E. (1978): *Janusz Korczak, der Pestalozzi aus Warschau*. Zürich: Verlag Schweizerischer Lehrerverein.
- Dauzenroth, E. (1981): *Ein Leben für Kinder. Janusz Korczak - Leben und Werk*. Gütersloh : Gütersloher Verl.haus G. Mohn.
- Dauzenroth, E. (1994): Korczak, Deutschland und die Deutschen. In: *Einführung in die Korczak-Pädagogik. Konzeption, Rezeption und vergleichende Analysen* (Herausgegeben von Kunz, L.). Weinheim/ Basel: Beltz Verlag, S. 71-102.
- Dauzenroth, E. (1997): "The fifteenth auxiliary saint" In: *Dialogue and universalism*, Vol. 7, No. 9-10, Centre of Universalism, Warsaw University, pp.171-172.
- Dauzenroth, E./ Kirchner, M. (Hrsg.) (2006): *Janusz Korczak: Erfahrungen und Begegnungen*. Bielefeld/ Heidelberg: Karoi-Verlag.
- Demmerling, C. (2007): *Philosophie der Gefühle: Von Achtung bis Zorn*. Stuttgart: J.B. Metzler.
- Engemann-Reinhardt, B.(Hrsg.)/ Korczak, J. (Autor)/ Ball, P. (Übersetz.)/ Dross, A. (Übersetz.)(1990): *Das Kind neben Dir: Gedanken eines polnischen Pädagogen*. München: Hermann Luchterhand Verlag; Berlin: Cornelsen Verlag/Volk und Wissen Verlag.
- Engemann-Reinhardt, B. (2013): Mein Weg mit Korczak – Berlin, Warschau und Düsseldorf. In: Godel-Gaßner, R. (Hrsg.)/ Krehl, S. (Hrsg.): *Facettenreich im Fokus: Janusz Korczak und seine Pädagogik - historische und aktuelle Perspektiven*, S. 33-48.
- Falkowska, M. (1989) *Kalendarz życia, działalności i twórczości Janusza Korczaka*, Nasza Księgarnia, Warszawa.
- Godel-Gaßner, R. (Hrsg.)/ Krehl, S. (Hrsg.) (2013): *Facettenreich im Fokus: Janusz Korczak und seine Pädagogik - historische und aktuelle Perspektiven*. Gera: Garamond Verlag.
- Godel-Gaßner, R. (Hrsg.)/ Krehl, S. (Hrsg.) (2017): *Kinder sind auch (nur) Menschen. Janusz Korczak und seine Pädagogik der Achtung. Eine Einführung*. Gera: Garamond Verlag.

- Gönner, R. (1967): Der polnische Pestalozzi. In: *FAZ (Frankfurter Allgemeine Zeitung)*, Nr. 182/9.8.
- Göppel, R. (2007): *Aufwachsen heute: Veränderungen der Kindheit - Probleme des Jugendalters*. Stuttgart: Kohlhammer.
- Graubner, B. (1982): Korczaks Aufenthalt in Berlin (1907/1908). In: Beiner, F. (Hrsg.), *Janusz Korczak. Zeugnisse einer lebendigen Pädagogik 1. Korczak-Kolloquium Vierzig Jahre nach seinem Tod*. Heinsberg: Dieck, S. 139-160.
- Greig, D. (2019). *Dr Korczak's Example*. Independently published.
- Gronert, M. (Hrsg.)/ Schraut, A. (2018): *Handbuch Vereine der Reformpädagogik. Überregional arbeitende reformpädagogische Vereinigungen sowie bildungsentwicklerisch initiative Einrichtungen mit Brückenfunktion in Deutschland, Österreich, der Schweiz, Südtirol und Liechtenstein*. Baden-Baden: Ergon Verlag.
- Grzybowski, R. (2019) Pedagogika człowieka samotnego? Kilka refleksji na temat pedagogiki Janusza Korczaka w perspektywie jego Pamiętnika, *Polska Myśl Pedagogiczna*, 5, Wydawnictwo Uniwersytetu Jagiellońskiego, s. 179-193.
- Hahn, H.H. (Hrsg.)/ Traba, R. (Hrsg.)/ Loew, P.O. (Hrsg.) (2012–2015): *Deutsch-Polnische Erinnerungsorte*. Bd. 1: Geteilt / Gemeinsam. Bd. 2: Geteilt / Gemeinsam. Bd. 3: Parallelen. Bd. 4: Reflexionen. Bd. 5: Erinnerung auf Polnisch. Paderborn/ München/ Wien: Schöningh.
- Hebenstreit, S. (2017): *Janusz Korczak. Leben - Werk - Praxis: Ein Studienbuch*. Weinheim: Beltz Juventa Verlag.
- Heise, H. (1982): Der Pestalozzi Polens. Janusz Korczak zum Gedächtnis. In: *Unsere Jugend*. München Jg. 34. H. 7, S. 290-303.
- Henning Hahn, H. / Traba, R. (2015): *Deutsch-Polnische Erinnerungsorte, vol. 1: Geteilt/Gemeinsam*. Paderborn: Ferdinand Schöningh.
- Hermeier, P. (2006): *Die politische Relevanz der Erziehung bei Janusz Korczak*. Göttingen: Cuvillier Verlag.
- Hoffmann, D. (Hrsg.)/ Heid, H.(Hrsg.) (1991): *Bilanzierungen erziehungswissenschaftlicher Theorieentwicklung. Erfolgskontrolle durch Wissenschaftsforschung*, Weinheim: Deutscher Studien Verlag, S. 25-49.
- Jakubowski, M. (1989) *Klasyki Pedagogiki opiekuńczej tom 1 System opiekuńczo-wychowawczy Janusza Korczaka*, Wyższa Szkoła Pedagogiczna w Częstochowie, Częstochowa.
- Jaworski, M. (1977) *Janusz Korczak wyd.II*, Interpress, Warszawa.
- Kaminska, M. (2010): *Dialogische Pädagogik und die Beziehung zum Anderen: Martin Buber und Janusz Korczak im Lichte der Philosophie von Emmanuel Levinas*. Münster: Waxmann Verlag.
- Kahn, G. (1990): Das Kind wird nicht erst Mensch - es ist schon einer : Einlassung auf Janusz Korczak. In: *Schweizer Schule*, 77 (1990), Heft11, S. 27-33.
- Kalcher, A. M. (Hrsg.)/ Lauerer, K. (Hrsg.) (2018): *Kinderrechte*. Salzburg: Verlag Anton Pustet.
- Kalinowski, D. (2021) Blaski i cienie dzieciństwa w opowiadaniach Janusza Korczaka. *Żydzin wschodniej Polski*. Seria IX: Dziecko żydowskie, red. nauk. Grażyna Dawidowicz i Jarosław Ławski,

Białystok s. 243-267.

- Kaminska, M. (2010): *Dialogische Pädagogik und die Beziehung zum Anderen: Martin Buber und Janusz Korczak im Lichte der Philosophie von Emmanuel Levinas*. Münster: Waxmann Verlag.
- Kant, I. (1785): *Grundlegung der Metaphysik der Sitten*. In ders.: Weischedel, W. (1968): *Werke in zehn Bänden*, Bd. 6. Darmstadt : Darmstadt Wissenschaftliche Buchgesellschaft.
- Kant, I. (1788): *Kritik der praktischen Vernunft*. In ders.: Weischedel, W. (1968): *Werke in zehn Bänden*, Bd. 6. Darmstadt : Darmstadt Wissenschaftliche Buchgesellschaft.
- Karl-August, H. (1982): Erziehungswissenschaften. In: *Giessener Universitätsblätter*, 15, Heft 1, S. 43-47.
- Kazemi-Weisari, K. (2004): *Kinder verstehen lernen: Wie Beobachtung zu Achtung führt*. Hannover: Friedrich Verlag (Kallmeyer'sche Verlags).
- Kemper, H. (1990): *Erziehung als Dialog: Anfragen an Janusz Korczak und Platon-Sokrates*. Weinheim/ München: Juventa.
- Kerber-Ganse, W. (2009): *Die Menschenrechte des Kindes: Die UN-Kinderrechtskonvention und die Pädagogik von Janusz Korczak. Versuch einer Perspektivenverschränkung*. Leverkusen: Verlag Barbara Budrich.
- Kipke, R. (Hrsg.)/ Röttger, R. (Hrsg.)/ Wagner, J. (Hrsg.)/ v. Wedelstaedt, A.K. (Hrsg.) (2021): *ZusammenDenken: Festschrift für Ralf Stoecker*. Wiesbaden: Springer VS.
- Kirchhoff, H. (1988): *Dialogik und Beziehung im Erziehungsverständnis Martin Bubers und Januzs Korczaks*. Frankfurt a. M.
- Kirchner, M./ Andresen, S./ Schierbaum, K. (2018): *Janusz Korczaks ‚schöpferisches Nichtwissen‘ vom Kind*. Wiesbaden: Springer VS.
- Kirchner, M. (2018) "... Es ist immer anders..." John Dewey und Janusz Korczak: Routine oder Erfahrung? In: *Pädagogische Rundschau*, 72 (2018) 3, S. 327-340.
- Klein, F. (1982): Janusz Korczak - zum 40. Todestag des polnischen Pestalozzi aus Warschau. In: *Behindertenpädagogik in Bayern*, 25 (3), S. 122-125.
- Klein, F. (1983): Die gelebte Heilpaedagogik Janusz Korczaks aus seinem Menschenbild heraus. In: *Behinderte in Familie, Schule und Gesellschaft*, 6 (4), S. 30-37.
- Klein, F. (1985): Janusz Korczak - Hilfe bei der Suche des reinen Erziehungsbegriffs für die heilpädagogische Schulpraxis. In: *Vierteljahresschrift für Heilpädagogik und ihre Nachbargebiete*, 54(1), S. 3-14.
- Klein, F. (1997): *Janusz Korczak. Sein Leben fuer Kinder - sein Beitrag fuer die Heilpaedagogik*. Bad Heilbrunn: Klinkhardt.
- Klein, F. (2010): *Inklusive Erziehungs- und Bildungsarbeit in der Kita: Heilpädagogische Grundlagen und Praxishilfen*. Köln: Bildungsverlag EINS.
- Klein, F. / Krenz, A. (2013): *Bildung durch Bindung: Frühpädagogik: inklusiv und beziehungsorientiert*. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.
- Klein, F. (2017): *Heilpädagogik im Dialog*. Berlin: BHP-Verlag –Berufs- und Fachverbands GmbH.

- Klein, F. (2018a): *Mit Janusz Korczak Inklusion Gestalten*. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.
- Klein, F. (2018b): *Inklusive Erziehung in Krippe, Kita und Grundschule: Heilpädagogische Grundlagen und praktische Tipps im Geiste Janusz Korczaks*. München: Oberstebrink.
- Klein, F. (2019): Das provokative Essay: Mit Janusz Korczak ist die Heilpädagogik neu zu vermessen. In: *Vierteljahresschrift für Heilpädagogik und ihre Nachbargebiete*, 2/2019, S. 93-99.
- Klein, F. (2020a): Die Bedeutung der Resonanz in der Beziehungsgestaltung. In: *Schweizerische Zeitschrift für Heilpädagogik*, 26 (5-6), S. 54-55.
- Klein, F. (2020b): Die Würde der pädagogischen Praxis. In: *Menschen. Zeitschrift für gemeinsames Leben, Lernen und Arbeiten*, 43 (1), S. 10-13.
- Klein, F. (2020c): Das Gute im Kind sehen und mit ihm handeln. In erschwerten Situationen die (heil-)pädagogische Professionalität vertiefen. In: *Zeitschrift für Heilpädagogik*, 71(11), S. 568-574.
- Klein, F. (2022a). Mit Janusz Korczak das Gute im Kind sehen. In: *Schweizerische Zeitschrift für Heilpädagogik*, 28 (7-8), S. 53-57.
- Klein, F. (2022b): *Janusz Korczak: Die Aktualität seiner Pädagogik: Zur Erinnerung an seinen 80. Todestag*. Regensburg: Walhalla Fachverlag.
- Klein, F. (2023): Professionsethisches Denken und Handeln Mit Janusz Korczak die Würde des Menschen achten. In: *Schweizerische Zeitschrift für Heilpädagogik*, 29 (4): Ehtik, S. 2-7.
- Kohlberg, L. (1981). "Education for justice: The vocation of Janusz Korczak" In: *The Philosophy of Moral Development: Moral Stages and the Idea of Justice*, New York: Harpercollins, pp. 400-408.
- Korczak, J. (1918) Jak kochać dziecko. Dziecko w rodzinie, *Janusz Korczak Dzieła tom 7*, oraz przypisy/ Elżbieta Cichy, Warszawa 1993, 7-136.
- Korczak, J. (1920a) Jak kochać dziecko. Internat, *Janusz Korczak Dzieła tom 7*, Oficyna Wydawnicza Latona, Warszawa 1993, 137-219.
- Korczak, J. (1920b) Jak kochać dziecko. Kolonie letnie, *Janusz Korczak Dzieła tom 7*, Oficyna Wydawnicza Latona, Warszawa 1993, 220-268.
- Korczak, J. (1920c) Jak kochać dziecko. Dom Sierot. *Janusz Korczak Dzieła tom 7*, Oficyna Wydawnicza Latona, Warszawa 1993, 269-357.
- Korczak, J. (1923) *Król Maciuś Pierwszy*. Towarzystwo Wydawnicze, Warszawa.
- Korczak, J. (1924) *Bankructwo małego Dżeka*. Towarzystwo Wydawnicze, Warszawa.
- Korczak, J./ Gruszczyńska, A. (Übersetz.) (1935): *Der Bankrott des kleinen Jack*. Berlin: Williams & Co. Berlin.
- Korczak, J./ Weintraub, K. (Übersetz.)(1957): *König Hänschen I*. Warschau: Polonia Verlag.
- Korczak, J./ Droß, A. (Übersetz.)/ Heimpel, E.(Hrsg.)/ Roos, H.(Hrsg.) (1967): *Wie man ein Kind lieben soll*. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.
- Korczak, J./ Heimpel, E. (Hrsg.)/ Roos, H. (Hrsg.) (1970a): *Das Recht des Kindes auf Achtung*. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.
- Korczak, J./ Weintraub, K. (Übersetz.)(1970b): *König Hänschen I*. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.

- Korczak, J./ Weintraub, K. (Übersetz.) (1971): *König Hänschen auf der einsamen Insel*. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.
- Korczak, J. (1972a): *Jack handelt für alle*. Berlin: Cecilie Dressler Verlag.
- Korczak, J./ Roos, R. (Übersetz.)/ Kozłowski, N. (Übersetz.) (1972b): *Begegnungen und Erfahrungen. Kleine Essays*. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.
- Korczak, J./ Heimpel, E. (Hrsg.) (1973): *Begegnungen und Erfahrungen: kleine Essays*. Kleine Vandenhoeck-Reihe, Bd. 372-373. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.
- Korczak, J./ Schultz, G. (Hrsg.) (1975): *Die Liebe zum Kind*. Berlin: Union Verlag.
- Korczak, J. (1978a) *Pisma wybrane*, t. 1–4, wprowadzenie i wybór Lewin, A., Nasza Księgarnia, Warszawa.
- Korczak, J./ Schultz, G. (Hrsg.)(1978b): *König Macius der Erste. Roman in zwei Teilen für Leser jeden Alters*. Leipzig und Weimar: Gustav Kiepenhauer Verlag. (東ドイツ)
- Korczak, J. (1978c): *Wenn ich wieder klein bin*. Berlin: Union-Verlag. (東ドイツ)
- Korczak, J. (1983): *Begegnungen und Erfahrungen. Kleine Essays*. (Aus d. Poln. von Ruth Roos u. Nina Kozłowski) - 3. Auflage-. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.
- Korczak, J./ Heonker, M. (Übers.)(1994): *Der kleine König Macius. Eine Geschichte in zwei Teilen für Kinder und Erwachsene*. Die vollständige Ausgabe. Nachwort von Günter Schulze. Freiburg im Breisgau: Verlag Herder.
- Korczak, J. (1996): *Janusz Korczak Sämtliche Werke*: Bd. 1, Kinder der Strasse; Kind des Salons. (Herausgegeben von Beiner, F./ Dauzenroth, E.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.
- Korczak, J. (1997): *Janusz Korczak Sämtliche Werke*: Bd. 5, Der Frühling und das Kind; Allein mit Gott ;Senat der Verrückten; Die Menschen sind gut; Drei Reisen Herscheks. (Herausgegeben von Beiner, F./ Dauzenroth, E.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.
- Korczak, J. (1998): *Janusz Korczak Sämtliche Werke*: Bd. 12, Der Bankrott des kleinen Jack; Kajtus; der Zauberer. (Herausgegeben von Beiner, F./ Dauzenroth, E./ Kaminski, W./ Ungermann, S.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.
- Korczak, J. (1999a): *Janusz Korczak Sämtliche Werke*: Bd. 4, Wie man ein Kind liebt; Erziehungsmomente; Das Recht des Kindes auf Achtung; Fröhliche Pädagogik. (Herausgegeben von Beiner, F./ Ungermann, S.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.
- Korczak, J. (1999b): *Janusz Korczak Sämtliche Werke*: Bd. 8, Sozialmedizinische Schriften. (Herausgegeben von Beiner, F./ Dauzenroth, E./ Kirchner, M.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.
- Korczak, J. (1999c): *Janusz Korczak Sämtliche Werke*: Bd. 10, Eindrücke und Notizen aus Sommerkolonien; Die Mojscheks, Joscheks und Sruleks; Die Józeks, Jasiyks und Franeks; Ruhm. (Herausgegeben von Beiner, F./ Dauzenroth, E./ Ungermann, S.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.
- Korczak, J. (1999d): *Janusz Korczak Sämtliche Werke*: Ergänzungsband Janusz Korczak in der Erinnerung von Zeitzeugen. (Herausgegeben von Beiner, F./ Ungermann, S.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.

- Korczak, J. (2000a): *Janusz Korczak Sämtliche Werke*: Bd. 3, Bobo; Die verhängnisvolle Woche; Beichte eines Schmetterlings ; Wenn ich wieder klein bin; Regeln des Lebens über die Einsamkeit. (Herausgegeben von Beiner, F./ Dauzenroth, E./ Ungermann, S.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.
- Korczak, J. (2000b): *Janusz Korczak Sämtliche Werke*: Bd. 6, Geschichten und Erzählungen; Belehrungen und Betrachtungen; Die Schweizreise. (Herausgegeben von Beiner, F./ Dauzenroth, E.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.
- Korczak, J. (2002a): *Janusz Korczak Sämtliche Werke*: Bd. 2, Humoresken; Satiren; Albernes Zeug. (Herausgegeben von Beiner, F./ Dauzenroth, E.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.
- Korczak, J. (2002b): *Janusz Korczak Sämtliche Werke*: Bd. 7, Sozialkritische Publizistik; Die Schule des Lebens. (Herausgegeben von Beiner, F./ Dauzenroth, E./ Ungermann, S.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.
- Korczak, J. (2002c): *Janusz Korczak Sämtliche Werke*: Bd. 11, König Macius der Erste.; König Macius auf der einsamen Insel. (Herausgegeben von Beiner, F./ Dauzenroth, E./ Newerly, I./ Ungermann, S.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.
- Korczak, J. (2003): *Janusz Korczak Sämtliche Werke*: Bd. 13, Ein hartnäckiger Junge; Publizistik für Kinder und Jugendliche; Berichte und Geschichten aus den Waisenhäusern. (Herausgegeben von Beiner, F./ Dauzenroth, E./ Ungermann, S.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.
- Korczak, J. (2004): *Janusz Korczak Sämtliche Werke*: Bd. 9, Theorie und Praxis der Erziehung; Pädagogische Essays 1898-1942. (Herausgegeben von Beiner, F./ Dauzenroth, E.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.
- Korczak, J. (2005a): *Janusz Korczak Sämtliche Werke*: Bd. 14, Kleine Rundschau; Chanukka- und Purim-Szenen. (Herausgegeben von Beiner, F./ Dauzenroth, E./ Kirchner, M.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.
- Korczak, J. (2005b): *Janusz Korczak Sämtliche Werke*: Bd. 15, Briefe und Palästina-Reisen; Dokumente aus den Kriegs- und Ghetto-Jahren; Tagebuch-Erinnerungen; Varia. (Herausgegeben von Beiner, F./ Dauzenroth, E.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.
- Korczak, J. (2006). *Janusz Korczak: The child's right to respect: Janusz Korczak's legacy: Lectures on today's challenges for children*. (Translated by Kulawiec, E. P.) Strasbourg: Council of Europe.
- Korczak, J. (2010): *Janusz Korczak Sämtliche Werke*: Bd. 16, Themens seines Lebens; Kalendarium: Werkbiographie. (Herausgegeben von Beiner, F./ Dauzenroth, E.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.
- Korczak, J./ Andreden, S. (Hrsg.) (2018): *Wie man ein Kind lieben soll*. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.
- Korczak, J./ Beiner, F. (Hrsg.) (2023): *Themen seines Lebens: Eine Werkbiographie. Sonderausgabe - Grundwissen für den Leistungskurs Pädagogik*. Gütersloher: Gütersloher Verlagshaus.
- Kowal, G. (2016) Niemiecka recepcja Janusza Korczaka. *Transfer. Reception Studies*; T. 1, Cyrkulacja Literatury niemieckojęzycznej i polskiej w XXI wieku, 209-233.

- Kuhlmann, C. (2013): *Erziehung und Bildung. Einführung in die Geschichte und Aktualität pädagogischer Theorien*. Wiesbaden: Springer VS.
- Kumm, E. (1968): Das Recht auf den heutigen Tag: über Janusz Korczak u. seine Erziehungslehre. *Süddeutsche Zeitung*, Nr.177.
- Langhanky, M. (1994): *Die Pädagogik von Janusz Korczak: Dreisprung einer forschenden, diskursiven und kontemplativen Pädagogik*. Neuwied: Luchterhand.
- Lawaty, A. (Hrsg.)/ Mincer, M. (Hrsg.) (2000): *Deutsch-polnische Beziehungen in Geschichte und Gegenwart. Bibliographie*. (Unter Mitwirkung von Domańska, A.) Harrassowitz: Verlag · Wiesbaden.
- Lewin, A. (1997): "The Wanderings of Ideas or a Model of Humanity?" In: *Dialogue and Universalism*, No. 9-10, pp. 11-24.
- Lewin, A. (1998): *So war es wirklich. Die letzten Lebensjahre und das Vermächtnis Janusz Korczaks*. (Herausgegeben von Beiner, F./ Ungermann, S.) Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus.
- Liebel, M. (Hrsg.) (2013): *Janusz Korczak - Pionier der Kinderrechte. Ein internationales Symposium*. Münster: Lit Verlag.
- Matyjas, B. (1996) Aktywność kulturalna dzieci i młodzieży w teorii i praktyce pedagogicznej Janusza Korczaka, Wyższa Szkoła Pedagogiczna im. Jana Kochanowskiego, Kielce.
- Maluga, A. (2020): *Die Rechte des Kindes und der Tod. Janusz Korczaks Pädagogik der Achtung in der Kinderhospizarbeit*. Bad Heilbrunn: Verlag Julius Klinkhardt.
- Medvedeva-Nathoo, O. (2013). The Home for Orphans as the Children's Republic. In: *2012 - Janusz Korczak Year: an international perspective on children's rights and pedagogy: a selection of lectures presented during the Korczak seminars organized by Polish diplomatic missions abroad in 2012* (ed.by Jaros, P.). Warszawa: Ministry of Foreign Affairs of the Republic of Poland, pp. 14-18.
- Miłosz, C. (1983). JANUSZ KORCZAK LITERARY AWARDS. In: *The Polish Review*, Vol. 28, No. 2, pp. 19-23.
- Mortkowicz-Olczakowa, H. (1961): *Janusz Korczak. Biographie*. Weimar: Gustav Kiepenheuer Verlag.
- Mortkowicz-Olczakowa, H. (1966) Janusz Korczak wyd.III, Czytelnik, Warszawa.
- Mortkowicz-Olczakowa, H. (1967a): *Janusz Korczak: Arzt und Pädagoge. Aus dem Polnischen von Henryk Bereska*. München-Salzburg; Pustet. (西ドイツ)
- Mortkowicz-Olczakowa, H. (1967b): *Janusz Korczak. Arzt und Pädagoge*. Berlin/ Potsdam/ Weimar/ Leipzig: Gustav Kiepenheuer Verlag. (東ドイツ)
- Mueller, N./ Pickhan, G. (2015): Janusz Korczak - Pons inter nations. In: Henning Hahn, H. (Hrsg) / Traba, R. (Hrsg.): *Deutsch-Polnische Erinnerungsorte, vol. 1: Geteilt/Gemeinsam*. Paderborn: Ferdinand Schöningh, S.689-700.
- Odrowąż-Coates, A. (ed.) (2020). *WHAT WOULD KORCZAK DO? Reflections on Education, Well-being and Children's Rights in the Times of the COVID-19 Pandemic*. The Maria Grzegorzewska University, Warsaw.
- Oelkers, J. (1982): War Korczak Pädagoge? In: F. Beiner (Hrsg.), *Janusz Korczak. Zeugnisse einer*

- lebendigen Pädagogik* . 1. Korczak-Kolloquium Vierzig Jahre nach seinem Tod. Heinsberg: Dieck, S. 42-60.
- Oeklers, J. (1998): Besprechung: Janusz Korczak: Sämtliche Werke. Band 1: Kinder der Straße. Kind des Salons; Band 2: Der Frühling und das Kind. Allein mit Gott. Unverschämt kurz. Senat der Verrückten. Die Menschen sind gut. Drei Reisen Herscheks. Kinder der Bibel: Mose. (Herausgegeben von Erich Dauzenroth/Friedhelm Beiner. Gütersloh: Gütersloher Verlagshaus 1996) In: *Zeitschrift für Pädagogik*, Jahrgang 44, Heft 2 -März/April, S. 324-327.
- Oelkers, J. (2015): Korczaks Tagebuch und seine Pädagogik. In: *Konstitutionelle Pädagogik als Grundlage demokratischer Entwicklung* (Herausgegeben von Bartosch, U./ Maluga, A./Bartosch, C./Schieder, M.). Bad Heilbrunn: Verlag Julius Klinkhardt, S. 23-39.
- Oeklers, J. (2017): „War Korczak Pädagoge?“ Ein Nachtrag. In: Steiger, S./ Maluga, A. u.a. (Hrsg.): *Der Blick ins Freie. Im Diskurs mit Janusz Korczak*. Bad Heilbrunn: Julius Klinkhardt Verlagsbuchhandlung, S. 157-158.
- Oommen-Halbach, A. (2021): “German-Polish scientific cooperations in divided Germany – Janusz Korczak associations in East and West Germany since the 1970s”. *Acta medico-historica Rigensia*. XIV: 37-56 doi:10.25143/amhr.2021.XIV.03, s. 38-56.
- Olczak-Ronikier, J. (2011) *Korczak. Próba biografii*, Wydawnictwo W. A. B., Warszawa.
- Pelzer, W. (1987): *Janusz Korczak: Mit Selbstzeugnissen und Bilddokumenten*. Hamburg: Rowohlt.
- Pfisterer, A. (2019): *Pädagogik der Wertschätzung – Eine Chance für die Schule der Gegenwart? Grundlagen und Möglichkeiten*. Weinheim: Beltz.
- Plunka, G.A. (2012). *Staging Holocaust Resistance (Palgrave Studies in Theatre and Performance History)*. New York: Palgrave Macmillan.
- Pobirchenko, N. (2020) Pedagogika dziecka w twórczości Janusza Korczaka i Wasyla Suchomlińskiego (próba analizy porównawczej), *Zeszyty Naukowe Państwowej Wyższej Szkoły Zawodowej im. Witelona w Legnicy*, nr 35(2), s. 9-20.
- Pollak, G. (1991): Der Begriff der ‘Pädagogisierung’ in der erziehungswissenschaftlichen Diskussion. Vorbereitende Untersuchungen zur ‘Bilanz’ der Erziehungswissenschaft. In: Hoffmann, D.(Hrsg.)/ Heid, H.(Hrsg.): *Bilanzierungen erziehungswissenschaftlicher Theorieentwicklung. Erfolgskontrolle durch Wissenschaftsforschung*, Weinheim: Deutscher Studien Verlag, S. 25-49.
- Pindera, M., Wojciechowski, J. (2003) *Nauczyciel-wychowawca według Janusza Korczaka*, *Nauczyciel i Szkoła*, 3-4, s. 23-30.
- Prorok, L. (1998) Czy saga o Król Maciusiu jest utopia?, *Ruch Pedagogiczny*, 3/4, s. 145-157.
- Pörzgen, R. (1982): *Janusz Korczak Bibliograph*. München: K. G. Saur.
- Radtke, U. (2000): *Janusz Korczak als Pädagoge : zum Recht des Kindes auf Achtung*. Marburg: Tectum Verlag.
- Ribolits, E. (Hrsg.)/ Zuber, J. (Hrsg.) (2004): *Pädagogisierung: Die Kunst, Menschen mittels Lernen immer dümmer zu machen!*. Innsbruck-Wien-München-Bozen: Studien Verlag.
- Sautter, H./ Stinkes, U./ Trost, R. (2004): *Beiträge zu einer Pädagogik der Achtung*. Heidelberg:

Universitätsverlag Winter.

- Sęczek, M. (2020) Ślady zapomnianej tożsamości. O roli źródeł w biografii Janusza Korczaka. *Napis*, XXVI (2020), Wydział Polonistyki Uniwersytetu Warszawskiego i Instytut Badań Literackich PAN, Warszawa, s. 70–95.
- Schaber, P. (2009): Achtung vor der Würde von Personen. In: *Deutsche Zeitschrift für Philosophie*, 57 (1), S. 169-173.
- Schäfer, A. (Hrsg.)/ Thompson, C. (Hrsg.) (2013): *Pädagogisierung*. Wittenberger Gespräche; 1, Halle :Martin-Luther-Universität.
- Schierbaum, K. (2018): *Janusz Korczak, der Brückenbauer. Relektüre der Spannungsverhältnisse in seinem Leben und Werk*. Berlin: SpringerVS.
- Schneider-Flume, G. (2015): *Kinder können fliegen. Leben mit Kindern – Im Gespräch mit Janusz Korczak*. Frankfurt am Main: Peter Lang.
- Schonig, B. (1999): *Auf dem Weg zur eigenen Pädagogik: Annäherungen an Janusz Korczak*. Baltmannsweiler: Schneider-Verlag Hohengehren.
- Schüler, A. / Dauzenroth, E. (Hrsg.) / Geissler, E. E. (Hrsg.) (1967): *De magistro : über Lehre und Lehrer des Glaubens*. Mainz: Grünewald-Verlag.
- Schulze, G. (1975): *Die Liebe zum Kind. Eine Auswahl aus seinen Schriften*. Berlin: Union-Verlag.
- Sieradzka-Baziur, B. (2022) Rozwój duchowy dziecka w pedagogice Janusza Korczaka, *Horyzonty duchowości*, Tom 21, Nr 58, s. 11-21.
- Silverman, M. (2017). *A Pedagogy of Humanist Moral Education: The Educational Thought of Janusz Korczak*. New York: Palgrave Macmillan.
- Skibska, J. (2013) Podmiotowość dziecka w procesie edukacji - idea pedagogiki Janusza Korczaka we współczesnej praktyce pedagogicznej, *Edukacja jutra – Uwarunkowania współczesnej edukacji*, s. 339-346.
- Sobecki, M. (2008): *Janusz Korczak neu entdeckt. Pädologe und Erziehungsreformer*. Bad Heilbrunn: Klinkhardt.
- Steiger, S./ Maluga, A./ Bartosch, U. (Hrsg.) (2017): *Der Blick ins Freie. Im Diskurs mit Janusz Korczak*. Bad Heilbrunn: Klinkhardt.
- Stenger, U. (2011): Janusz Korczak: Jak kochać dziecko. In: Böhm, W. (Hrsg.)/ Fuchs, B. (Hrsg.)/ Seichter, S. (Hrsg.): *Hauptwerke der Pädagogik. Durchgesehene und erweiterte Studienausgabe*, Paderborn: Ferdinand Schöningh, S. 236-239.
- Szpilman, W. (2011): *Der Pianist. Mein wunderbares Überleben*. Berlin: Verlag Ullstein.
- Szymanski, M.S. (2008): Gedenken zur Bedeutung Janusz Korczaks in Geschichte und Gegenwart Polens. In: *Mitteilungsblatt des Förderkreises Bibliothek für Bildungsgeschichtliche Forschung e.V.* 19 (2008) 1, S. 25-33.
- Theiss, W.(2003) Janusza Korczaka pedagogika „mądrej miłości”, *Życie duchowe*, zima 33, s. 52-59.
- Tschöpe-Scheffler, S. (1990): *Liebe und ihre Bedeutung für die Erziehung in der Pädagogik Johann Heinrich Pestalozzis und Janusz Korczaks*. Frankfurt a.M.

- Tschöpe-Scheffler, S. (Hrsg.): *Janusz Korczak und die Kinderrechte. Gestern, heute, morgen*. Eitorf: Gata.
- Underwood, J./ Quyen Van, H./ Zhao, Z. (2020). Differing Interpretations of Janusz Korczak's Legacy in Schools that take Inspiration from His Work: A Study in Four Schools in the UK and Canada. In: *Eastern European Journal of Transnational Relations*, 4(1), pp. 151-162.
- Ungermann, S. (2006): *Die Paedagogik Janusz Korczaks*. Gütersloher: Gütersloher Verlagshaus.
- Vucic, B. (2019). 'Re-Placing' Janusz Korczak: Education as a Socio-Political Struggle. In: *Language, Discourse & Society*, vol. 7, no. 1(13), pp. 13-32.
- Edlinger, V. (Mitarb.)/ Harari, L. (Mitarb.)/ Lewin, A. (Mitarb.)/ Beiner, F. (Mitarb.)/ Dauzenroth, E. (Mitarb.) (1992): Janusz Korczak. (Heftthema). In: *Heilpädagogik*, 35 (2), S. 34-64.
- Waldijk, K. (1999): *Janusz Korczak: vom klein sein und groß werden*. Weinheim/ Basel: Beltz Verlag.
- Wasita, R. (1997). "Foreign translation and books about Korczak" In: Dialogue and universalism, Vol. 7, No. 9-10, Centre of Universalism, Warsaw University, pp.173-177.
- Weber, H. (1987): Es war einmal ein Mensch: Janusz Korczak. In: *Zeitschrift für Heilpädagogik*, S. 279-288.
- Weyers, S. (Hrsg.)/ Köbel, N. (Hrsg.): *Bildung und Menschenrechte: Interdisziplinäre Beiträge zur Menschenrechtsbildung*. Wiesbaden: Springer VS.
- Winkler, M. (2016): Janusz Korczak und die Pädagogik der Nicht-Erziehung. In: Kenklies, K. (Hrsg.)/ Blichmann, A. (Hrsg.): *Pädagogische Kultur des Judentums als moderne Tradition*, Paderborn: Verlag Ferdinand Schöningh, S. 115-132.
- Witkowska-Krych, A. (2014) Dziesięć ostatnich zapisków Janusza Korczaka. *Teksty Drugie* 5, Warszawa, s. 321-337.
- Wompel, I. R. (1981): Janusz Korczak im »Jahrhundert des Kindes«. In: *Pädagogik Rundschau*. St. Augustin. 35. Jg. Heft 9, S. 595-600.
- Wyrobnik, I. (2021): *Korczaks Pädagogik heute Wertschätzung, Partizipation und Lebensfreude in der Kita*. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.

【邦文文献】

- 荒川智 (1990) 『ドイツ障害児教育史研究: 補助学校教育の確立と変容』 亜紀書房。
- 井内敏夫 (2022) 『ポーランド中近世史研究論集』 刀水書房。
- 石川道夫 (1994) 「子どもたちと生きるために—ヤヌシュ・コルチャックの教育論—」 日本ペスタロッチー・フレーベル学会紀要『人間教育の探究』 第7号、97-113頁。
- 石川道夫 (1997a) 「コルチャックは子どもをどう愛したのか」 世界新教育学会編『教育新世界』 第23巻、第1号、20-26頁。
- 石川道夫 (1997b) 「教育者コルチャックの祈り—『ただ一人神と—無信仰者の祈り』をめぐって—」 日本ペスタロッチー・フレーベル学会紀要『人間教育の探究』 第10号、87-99頁。
- 石川道夫 (2011) 「子どもたちはなぜ泣くのか—子どもの権利の立場から— (シンポジウム 家庭の教育機能とは何か)」 日本ペスタロッチー・フレーベル学会紀要『人間教育の探究』 第23号、52-60頁。

- 石田勇治 (2020) 『20 世紀ドイツ史』 白水社。
- 伊藤定良 (2002) 『ドイツの長い一九世紀ドイツ人・ポーランド人・ユダヤ人』 青木書店。
- 大井数雄 (1978) 「ヤヌシュ・コルチャックの現実と虚構—ファシズムに抗したポーランドの児童文学の担い手」 『教育』 第 28 巻、第 4 号、118-121 頁。
- 大澤亜里 (2014) 「コルチャックの孤児院ドム・シエロットの設立と歴史的背景」 『北海道大学大学院教育学研究院紀要』 第 120 号、53-81 頁。
- 大澤亜里 (2015) 「コルチャックの思想および養育実践に関する研究の成果と課題」 『教育福祉研究』 第 20 号、135-148 頁。
- 大澤亜里 (2018) 「ヤヌシュ・コルチャックの教育実践」 北海道大学博士学位論文。
- 大澤亜里 (2022) 『ヤヌシュ・コルチャックの教育実践 子どもの権利を保障する施設養育の模索』 六花出版。
- 大田堯 (1997) 『子どもの権利条約を読み解く』 岩波書店。
- 岡田英己子 (1992) 『ドイツ治療教育学の歴史研究』 勁草書房。
- 小田倉泉 (2005) 「ヤヌシュ・コルチャックの生と教育思想に関する研究—子どもの権利思想に基づく教師教育論構築を目指して」 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 2005 年度博士学位論文。
- 小田倉泉 (2008) 「乳幼児の『意見表明』と『最善の利益』保障に関する研究」 日本保育学会誌『保育学研究』 第 46 巻、第 2 号、324-334 頁。
- カント著・篠田英雄訳 (1961) 『純粹理性批判 上』 岩波書店。
- カント著・篠田英雄訳 (1961) 『純粹理性批判 中』 岩波書店。
- カント著・篠田英雄訳 (1961) 『純粹理性批判 下』 岩波書店。
- カント著・篠田英雄訳 (1976) 『道徳形而上学原論』 岩波書店。
- 窪島務 (1998) 『ドイツにおける障害児教育の統合教育の展開』 文理閣。
- コルチャック、ヤヌシュ著、近藤康子訳 (1992) 『王さまマチウシ 1 世—コルチャック先生のお話』 女子パウロ会。
- コルチャック、ヤヌシュ著、田中壮泰・菅原祥・佐々木ボグナ監訳、野村真理・細見和之・大内隆一・細谷徹・佐伯彩共訳、野村真理・大澤亜里解説 (2023) 『コルチャック ゲッター日記』 みすず書房。
- 近藤二郎 (1990) 『コルチャック先生』 朝日新聞社。
- 近藤康子 (1995) 『コルチャック先生』 岩波ジュニア新書。
- 今野元 (2003) 『マックス・ヴェーバーとポーランド問題: ヴィルヘルム期ドイツ・ナショナリズム研究序説』 東京大学出版会。
- 新保庄三 (1996) 『コルチャック先生と子どもたち—ポーランドが子どもの権利条約を提案した理由』 あいゆうぴい。
- 菅修 (1974) 『治療教育学』 日本精神薄弱者愛護協会。
- 塚本智宏 (1993) 「コルチャック著『子どもの権利の尊重』(資料紹介)」 『季刊教育法』 第 92 号、92-108 頁。
- 塚本智宏 (2004) 『コルチャック 子どもの権利の尊重 —子どもはすでに人間である』 子どもの未来社。
- 塚本智宏 (2019) 『コルチャックと「子どもの権利」の源流』 子どもの未来社。
- 西川仁志、弘田陽介 (2015) 「歴史から何を学ぶか : J.コルチャックと H.アーレントをめぐる大学教育に

- において」『大阪城南女子短期大学研究紀要』第49巻、115-136頁。
- ペルツ、モニカ著、酒寄進一訳（1994）『コルチャック—私だけ助かるわけにはいかない!』ほるぷ出版。
- 松浦明日香（2019）「ドイツにおけるコルチャック研究の動向：全集„Janusz Korczak Sämtliche Werke“（1996-2010）の刊行を契機として」『広島大学大学院教育学研究科紀要第三部（教育人間科学関連領域）』、広島大学大学院教育学研究科、第68号、81-89頁。
- リフトン、ベティ・ジーン著、武田尚子訳（1991）『子どもたちの王様—コルチャック物語』サイマル出版会。
- 渡辺克義（2017）『物語ポーランドの歴史：東欧の「大国」の苦難と再生』中央公論新社。
- 割田聖史（2012）『プロイセンの国家・国民・地域：19世紀前半のポーゼン州・ドイツ・ポーランド』有志舎。